

会 議 録

- 1 会議の名称 令和6年度 妙高市子ども・子育て会議（第3回）
- 2 開催日時 令和6年12月20日（金）午後1時30分から2時45分まで
- 3 開催場所 妙高市役所 4階 403会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員
江口香代委員、樗沢秀久委員、佐藤友美委員、丸山瑞穂委員、笠原千鶴留委員、江口克也委員、相浦剛委員、児玉久美子委員（会長）、乗木邦友委員（副会長）、飯塚教裕委員（アドバイザー）
※東條委員、築田委員、水嶋委員、平出委員、小川委員（アドバイザー）は欠席
 - (2) 執行機関（事務局）
塚田教育長、こども教育課 小林課長、酒井園指導主事、池田係長、寺島係長
浅野係長、長野主査、健康保険課 松橋課長、長谷川係長
- 5 議事
 - (1) 第2回会議の協議内容について
 - (2) 妙高市こども計画（仮称）案について
 - (3) その他
- 6 会議録署名委員の選出
委員より意見なく、会長（議長）の一任により、樗沢委員と佐藤委員が選出された。
- 7 発言の内容
資料により、事務局が順次説明を行った。

<質疑・意見など>

- 1) 第2回会議の協議内容について
- 委 員 本計画の基本目標について、「子ども等の意見の反映」とあるが、小中学生は経験値も少なく、何をやりたいかと意見を聞かれてもうまく答えられない。情報や経験をたくさん与えたうえで、選択肢を示して意見を聞いて欲しい。
- 事務局 意見の反映は子どもが答えやすいように工夫していきたい。
- 委 員 経験や体験をたくさんして、「これが好き」とか「これがやりたい」というように、自分の意見を言えるチャンスを与えてもらいたい。

委員 先日開催された高校生によるイベントでは、高校生を主体として、市の担当者が上手にバックアップしながら、一緒に活動している姿が見られた。子どもの意見を聞く大人たちの体制や気持ちが大切だと考える。

委員 計画の基本目標の1番目に「子どもの権利・尊重」があがっており、妙高市の気持ちが表れていて評価できる。基本目標の3番と5番は、言葉が混同しやすいので、名称を見直して差別化してはどうか。

事務局 基本目標の名称は、県のこども計画に合わせているが、差別化できるよう見直したい。

2) 妙高市こども計画（仮称）案について

事務局 本計画の名称について、これまで、妙高市こども計画（仮称）としていたが、「子ども」に関する計画であることが分かりやすいよう、国のガイドラインや県・近隣自治体の策定状況を踏まえて、「妙高市こども計画」としたい。

〔第2章 妙高市の現況と国及び県の動向〕

委員 「出生数・出生率」について、平成23年から令和4年にかけて、出生数が約半数に減っている。このまま減り続けていくと、園の存続が成り立たなくなるため、妙高市全体の園の定員の見直しが必要ではないか。

事務局 子どもの数の推移を見ながら検討していきたい。

〔第5章 子ども施策の展開〕

委員 基本目標3にある「こども家庭センター」について、どのような専門職がいるのか、利用者はどんな人が対象なのか。

事務局 児童福祉と母子保健における一体的な相談支援を行う機能として、令和6年度から市役所内に設置したものであり、保健師、社会福祉士、家庭児童支援専門員、子ども・若者支援専門員、スクールソーシャルワーカー、臨床心理士といった専門職を配置し、妊産婦、子育て世帯、子どもに対する相談支援を行っている。

委員 基本目標7について、既に出会いの場の提供などを行っているが、さらに、その前の段階で、結婚・生活・地域の情報を若い世代に提供していく必要がある。

委員 結婚をしたいという人は沢山いるが、結果的に結婚しない人や、そんなつもりはなかったという人が多い。高校生時代から、結婚も含めた生活設計ができるよう教育、情報提供も必要である。

〔第6章 教育・保育の提供体制〕

委員 地域子育て支援拠点事業（子育て広場）について、私立園の開設分は含まれているか。

事務局 本表には含まれていないため、掲載について検討したい。

委員 保育教諭や保育士等の資質向上について、公立園の担任は正規職員、保育補助はフルタイム、パートタイムの会計年度職員が担っている。有資格者、無資格者と、全職員が一生懸命に働いているが、職員の高齢化が進んでおり、若い世代の人材の確保が必要である。

委員 質の高い保育を目指すとともに、先輩から教わった大切な理念を受け継いでいきたい。園だけが頑張るわけではなく、ICTを活用して、事務仕事の効率化を図りながら、保護者や地域と一体となって子どもの育ちを応援したい。

事務局 正規職員は充足しているが、未満児が増えていることにより、保育補助が不足しているため、その人材確保をしていきたい。

委員 子育て短期支援事業（トワイライトステイ、ショートステイ）は、妙高市では事業に取り組まないのか。

事務局 現時点では実施予定が無いため、そのような記載としている。

〔総括〕

委員 出生数が減少している状況を市民へ周知する方法はあるか。

事務局 少子化の現状についても本計画の内容に合わせて、市公式ホームページなど市民へ分かりやすく周知したい。

委員 若い人たちが働く場所が少ないと言うことが問題である。保育園は充実してきたが、まだまだ両親だけで子育てをするのは大変である。育休が取れるようになってきたのは良い傾向だと思う。

委員 若者が地元に残れるような取組が必要である。子育てに手厚いと人口が増えている事例もある。本計画については、きめ細かな周知をお願いしたい。また、感染症の流行に対応するため、病児保育室の定員の拡大を検討してもらいたい。

委員 出産後、仕事にすぐ行かなければならない場合、預けられる場所があると安心して働ける。女性が働きやすい環境整備をお願いしたい。

委員 給食の無償化などの妙高市の取組は良い。自身の周りでは子どもが地元に戻ってきたという話も聞くので、Uターン者の支援を行うほか、車での移動がしやすいといった、妙高市の強みをもっとPRしてはどうか。

委員 県外の人に対しては、妙高市の雪は強みでもある。雪ソムリエ、雪の博士の認定といった取組を進めて、雪の良さをアピールするのも良い。

委員 当たり前のことが大きく変わっている。学校環境もこの5年間に大きく変わっており、行政としての施策でも発想の転換が必要である。いかに効率よく成果を出すことが大事であり、最初は損をするが後で得をするといった、何年か先にプラスになるという施策も考えていくと良い。

委員 本計画をどれだけの人から理解してもらえるか。行政にやってもらうことが当たり前になっており、地域や個人が子育てについて何ができるのかといった、地域力の向上が必要である。市民周知のための本計画の簡易版があると良い。

委員 園が地域の子育ての一翼を担っている。地域の子育ての力を養っていかなければいけない。

委員 地域にあったコンパクトシティ、子育ての環境作りをしていく必要がある。

委員 ファミリーサポートセンターについて、支援を受けたい人のニーズが多様化しており、現行制度では対応できないケースが見られる。そのような人を助けることができるような仕組みづくりが必要ではないか。

事務局 本計画の中に記載できるよう検討したい。

3) その他

事務局 いただいたご意見を反映させて計画を修正し、パブリックコメントを実施する。修正案は会議を開催せずに書面で確認をお願いしたい。

上記に相違ないことを確認する。

令和 7 年 1 月 28 日

氏 名 榎 沢 秀 久 

氏 名 佐 藤 友 美 